

2003年度活動ダイジェスト

環境マネジメントシステム

F D Kグループは、全ての活動をとおした環境経営をグループ横断的かつ実効あるものにするため、I S O 14001^{*}をベースとした環境マネジメントシステムを構築しました。既に日本国内の事業所においては認証取得済みであり、早期に海外を含めたグローバルでのシステムの完成を目指しています。本年度は、インドネシア、タイおよび中国の南京の生産拠点で認証を取得しました。さらに、『F D K環境方針』の徹底と普及活動を行ない、地球環境への取り組みをグループ全体の活動へと強化しました。(P7, 参照)

省エネルギー

第2期環境行動計画として掲げた単位生産高あたりのエネルギー使用量およびエネルギーの絶対使用量の削減については、いずれもそれぞれの目標を達成することができました。

2003年度の二酸化炭素の総排出量は、27,995トン-CO₂と昨年度比では17%の削減、単位生産高あたりの二酸化炭素排出量につきましては、49トン-CO₂/億円と昨年度比39%の減少となりました。(P15参照)

廃棄物の削減

2003年度の有効利用されない廃棄物の総量は545トンで、昨年度比で48%削減できました。

その結果、第2期環境行動計画の目標である、有効利用されていない廃棄物を2003年度末までに1998年度実績比で60%削減に対しては、81%の削減となり、目標を達成することができました。

また、本年度末にF D Kエコテック(株)では、ゼロエミッション^{*}を達成しました。その他のゼロエミッション未達成の事業所では、目標を一年前倒して2004年度末までに達成できるように活動を進めています。(P16参照)

化学物質の削減

P R T R法対象物質の排出については、その状況を行政機関に届け出を行うとともに適正に管理しております。更に独自に特定化学物質として5物質を定め、重点的に排出量の削減に取り組み、98年度を基準として2003年度末までに40%以上の削減を目指して対策してきましたが、乾電池の生産量増加に伴うマンガンの使用量が増加したため、33%の削減にとどまりました。

また、「E C O - D B」と名づけたF D K環境負荷化学物質データベースを社内開発して、環境負荷物質の管理を行うと共にデータの共有化を図りました。購入品毎、製品毎に環境負荷化学物質を把握することができ、グリーン調達・グリーン製品の開発支援だけでなく、お客様からの含有物質調査にも活用しています。E C O - D Bでは使用禁止物質・削減対象物質を含め、現在1403物質のデータを管理しています。(P13, 14, 17, 18参照)

環境負荷の少ない製品開発

製品の設計段階から環境に配慮し、有害性、省資源化、廃棄時の分解性などを充分考慮した製品開発を続けています。2003年度は鉛フリー化の推進と省資源化などに配慮した製品の開発に注力いたしました。特に2003年10月に発表した超小型のアクチュエータユニット「FCU103」は省資源・省エネルギー化を実現しました。続いて2004年5月に発表した積層チップパワーインダクタ「MIRW」シリーズは鉛フリー化と省資源・省エネルギー化を実現しました。(P11, 12参照)

第三期環境行動計画の策定

富士通グループの方針を受けて、最先端のI T・環境技術をベースに事業活動の全領域を通じてお客様や社会に貢献できる活動に取り組んでいくために、F D Kグループ第三期環境行動計画(2004~ 2006年度)を策定し、新たな活動をスタートさせました。

(P10参照)

ISO14001*

環境管理システムを構築し、継続的に環境活動の改善に取り組むことを規定した国際規定。

ISO

International Organization for Standardization 国際的な統一規格を作成する機関。

ゼロエミッション*

産業活動を通じて排出される廃棄物や化学物質を限りなくゼロに近づけること。